

獣医学群獣医学類4年 丸山はづき (Hazuki Maruyama)

私は、8月24日から9月6日までの2週間、タイ王国カセサート大学短期留学プログラムに参加しました。初めての海外留学ということもあり、語学力や生活環境に対する不安も抱えながら参加しましたが、参加して本当に良かったです。すでにタイでの日々が恋しいほどです。2週間という短い期間ではありましたが、その中でも人生が大きく変わるような数々の体験をさせていただきました。報告書という形ですので、ここに詳細を全ては書ききれませんが、この報告書を読んで、少しでもタイの魅力を知っていただくとともに、留学にチャレンジしたいと思っていただけたら幸いです。

まず、私が今回のプログラムへの参加を希望したのは、日本以外の獣医療を見てみたかったこと（特にタイではエキゾチックアニマルやアクアティック、野生動物の保護が盛んだと聞いていたのでそれらを見てみたかった）、暑いタイ王国ではどのように生産動物から生産性を生み出しているか知りたかったこと、異文化や国際交流を通して自分の視野を広げたかったことが大きな理由です。もともと留学へ興味がありましたが、保守的な性格上、なかなか踏み切れずにいました。しかし、昨年、同じプログラムで酪農学園大学に来ていたタイの留学生との交流を通して国際交流の楽しさを知り、この体験が私の留学を後押ししてくれました。普段から保守的にならずに、色々なコミュニティーと交わるだけでも自分の視野を広げられると思います。

前置きが長くなりましたが、次に、タイでの授業や日常の一部を紹介します。2週間のうち、約12日間をカンペンセンキャンパスで、残りをバンコクキャンパスで過ごしました。カンペンセンでは、牛、馬、エキゾチックアニマル、アクアティック、診断学を学び、バンコクでは伴侶動物の病院を見学しました。このプログラムは伴侶動物よりも生産動物が中心ですので、生産動物に興味がある人により向いていると思います。



↑自然豊かなカンペンセンキャンパス。美しい南国の鳥を初め、オオトカゲやヤモリなどタイならではの様々な動物を見ることができる。動物好きにはたまらないキャンパス。

2週間のプログラムの詳細は下の表の通りです。

これより私が特に印象的だった授業3つとタイでの生活の一部を紹介します。

	Sun Aug 24	Mon Aug 25	Tue Aug 26	Wed Aug 27	Thu Aug 28	Fri Aug 29	Sat Aug 30
AM	Arriving at Suvarnabhumi TG671/15:00 check-in (International dormitory KPS)	Opening Ceremony & Orientation Dr.Aksorn (Meeting room 2)	Farm visit (cattle or goat) Dr.Somchai	1. Exotic /Wildlife/Raptor Rehab center 2. Equine unit **divided into 2 group (3 person for unit)	1. Exotic /Wildlife/Raptor Rehab center 2. Equine unit **divided into 2 group (3 person for unit)	Kamphaeng Saen Veterinary Diagnostic Center	free time
PM		Faculty/ Campus tour					
	Aug 31	Sep 1	Sep 2	Sep 3	Sep 4	Sep 5	Sep 6
AM	free time	Kamphaeng Saen Veterinary Diagnostic Center	Aquatic Medicine Dr.Printhip and staff	Aquatic Medicine Dr.Printhip and staff	Aquatic Medicine Dr.Printhip and staff	Presentation, Closing Ceremony/Animal Hospital tour (Dr.Aksorn)	Departure: Suvarnabhumi Airport
PM					check-out (15.00) /go to BKK and check-in (RECOFTC)	Free time	

1. Farm visit

この授業では牛（肉牛と乳牛）、山羊の農家を実際に訪問し、温暖なタイでの牛の管理方法や循環システムについて学びました。例えば、暑さに強い牛の品種改良を行なっていること、タイの強い日差しを利用して農地の寄生虫を殺す放牧管理を行なっていることなどです。気候や土地をうまく利用した管理方法が印象的でした。日本では、獣医の勉強として、牛の飼育方法や循環サイクルについて詳しく学ぶ機会は少ないですが、今回の授業を通して、牛の管理方法や循環システムなど農家側の視点も持てるように改めて勉強したいと思いました。



↑カンペンセン牛。

白い皮膚も暑さ耐性の知恵



↑山羊の採血に挑戦！皆さんのサポートもあり、無事にできました。

2. Exotic/Wild life

エキゾチックアニマルは、クリニカルローテーションのような形で、先生の診療を見させていただきました。タイではエキゾチックアニマルの飼育が盛んで、病院に専門の科があり、亀やカメレオン、ウサギ、リス、白鳥、インコ、蛇など様々なエキゾチックアニマルを見ることができました。具体的な症例として、金属を誤食したカメレオン、卵が詰まってしまった亀、巻き歯のリスなどが来ました。X線検査を通して、各

動物の体内構造を見ることもでき、大変興味深かったです。オーナーへの問診力や画像診断力などはもちろん、各動物の習性や特徴を把握しておく大切さも学びました。

野生動物は、大学内の猛禽類を保護している施設を見学しました。交通事故などで傷ついた個体を保護し、最終的に森に返すことを目指しているそうです。自然に近い環境を再現している施設が印象的でした。大学のような大きな組織が野生動物の保護を支持し、生徒にもそれらについて考える機会を与えている方針に感心するとともに、地球温暖化や森林破壊が進む現代においてこれらは必要不可欠なことだと感じました。私も野生動物の保護や共生について今一度考えたいと思いました。



↑ 猛禽類の保護施設の入り口での1枚



↑ 自然に近い環境の保護施設。中に鷹がいました。

3. Aquatic

この授業は3日間あり、まず座学としてタイの養殖業の歴史や飼育システムを学び、次に観賞魚と食用魚のテラピアの農家を実際に訪問しました。座学で知識を入れてから、農家訪問をしたので知識が頭により入りやすかったです。また、魚に関する授業は日本ではほとんどないので全てが新鮮でした。

Aquaticの先生方は私たちにたくさん問いかけをしてくださり、生徒たちが自ら考え発言することを大切にしているように感じました。授業では、グループディスカッションをする機会も多くあり、魚に異変があった時に獣医師として実際にどのように対応すべきか、その時に具体的に何を見るかなどについて話し合いました。英語でうまく聞き取れない、伝えられないもどかしさと戦いながらも、自分の意見を伝えることができたと思います。普段からただ答えを求めるだけでなく、問いを立てて思考していく力を身につけたいと思いました。

短期間なため、今回は、獣医的なことよりも主に魚の飼育方法やシステムについて

学びました。全ての土台となる飼育管理やシステムから学ぶことができ良かったですが、これらを受けて獣医師として実際にどのように動くのかや検査をしているのか興味を湧きました。長期のプログラムではできるとのことだったので、長期のプログラムも視野に入れたと思いました。



↑ ティラピア農家の訪問



↑ 昼食にティラピアをご馳走になりました。美味しかったです！

4. タイでの生活 ～放課後や週末の過ごし方～

昨年の交換留学を通して仲良くなったタイの友人を初め、現地で新しくできた友人から本当に親切にいただきました。みんな本当にフレンドリーで、優しく、英語が苦手な私達とも一生懸命コミュニケーションを取ってくれるので、いつしか英語への苦手意識も少なくなっていました。

放課後は、彼らがほぼ毎日マーケットやタイ料理のお店へ連れて行ってくれ、一緒に時間を過ごしました。タイのマーケットは、日本でいうお祭りの屋台が毎日出ている感覚です。規模も大きく、屋台数は数えていませんが40以上はあると思います。毎日がお祭りのようで、夢のような時間でした。値段も安いので、タイの食事をたくさん試すことができました。

大学内のスポーツフェスティバルの応援にも参戦させてもらいました。応援している側も元気になる盛り上がりで、その場にいるだけで明るい気持ちになりました。

週末はバンコクへ行き、現地の友人と一緒に、寺院に行ったり、ショッピングを楽しみました。タイの寺院は煌びやかそのものなのですが、それでいて厳かなので、その場にいると神秘的な気持ちになりました。タイの文化を感じることができる寺院はとてもおすすめの場所です。



↑スポーツフェスティバルの日。全員で記念撮影



↑マーケットで飲んだタイティー
とても美味しいのでおすすめ



↑タイの友人との寺院の前で



↑ワットアルンの前でみんなで



↑ワットアルン

記念撮影。1番感動した寺院でした！

5. タイの生活 ～食事～

実は食事は私が留学前に心配していた要因の1つでしたが、本当にどのタイ料理もスイーツも美味しく、初日にその悩みは吹き飛びました。日本と同じくお米が主食なこと、思っていた以上に辛い食べ物が多くあったからだと思います。

食事は、近くのレストラン、学校内のカフェテリアやマーケット、セブンイレブンなどで取っていました。衛生環境的に怪しいと判断したもの（屋台のカットフルーツなど。タイでは水道水が飲用には適していないのでその水で洗ったものは注意）は食べない、辛いものは控えるなどの注意は必要ですが、美味しいものばかりなので、慎重になりすぎずに色々な料理に挑戦してみると良いと思います。写真は載せきれませんが、下に一部紹介します。



↑パッタイ。日本の焼きそばのような感じです。辛くなく、どのお店でも美味しかったです！



↑学食。ご飯に自由におかずをのせて作るスタイルのお店がお気に入りでした。



↑カオソーイ。タイ北部の麺料理。スパイシーさとココナッツミルクがクセになります。



↑マンゴースティッキーライス
タイのデザート。マンゴーともち米にココナッツミルクをかけて楽しめます。

最後に…

私が今回の留学する上で1番心配だったことは自分の英語力です。今回のプログラムを終えて、やはり自分のリスニング力や英語のボキャブラリー（特に獣医の専門単語）の乏しさを痛感しました。改めて自分の苦手なところが分かった今、少しでも克服できるように努力していきたいと思います。しかし、それと同時に、どんなに英語が苦手でもコミュニケーションを取ろうとする姿勢が何よりも大切だということも学びました。英語が苦手だからこそ、内気にならずに、積極的にコミュニケーションをとるべきだと感じました。

今回の短期留学を通して、獣医学的な学びもあり、自分に何が足りないかも分かり、将来の夢の幅も広がりました。そして、それに向けて自分が今何をするべきか考えていくきっかけも得ました。タイに行く前はとても不安でしたが、多くのサポートのおかげで、2週間があっという間の本当に充実したプログラムでした。

最後になりましたが、機会をくださった先生方、国際交流課の皆さん、カセサート大学の先生方、学生の皆さん、仲良くしてくれたタイの友人達、応援してくれた両親に心から感謝します。本当にありがとうございました。



↑日本へ帰る日の空港での1枚。タイの友達が見送りに来てくれました。

お揃いのカセサート大学のTシャツもプレゼントしてくれました。一生の宝物です。